

生成AI時代の知財変革：弁理士に求められる「役割の質的転換」

AIがもたらす圧倒的な効率化（島津製作所の事例）

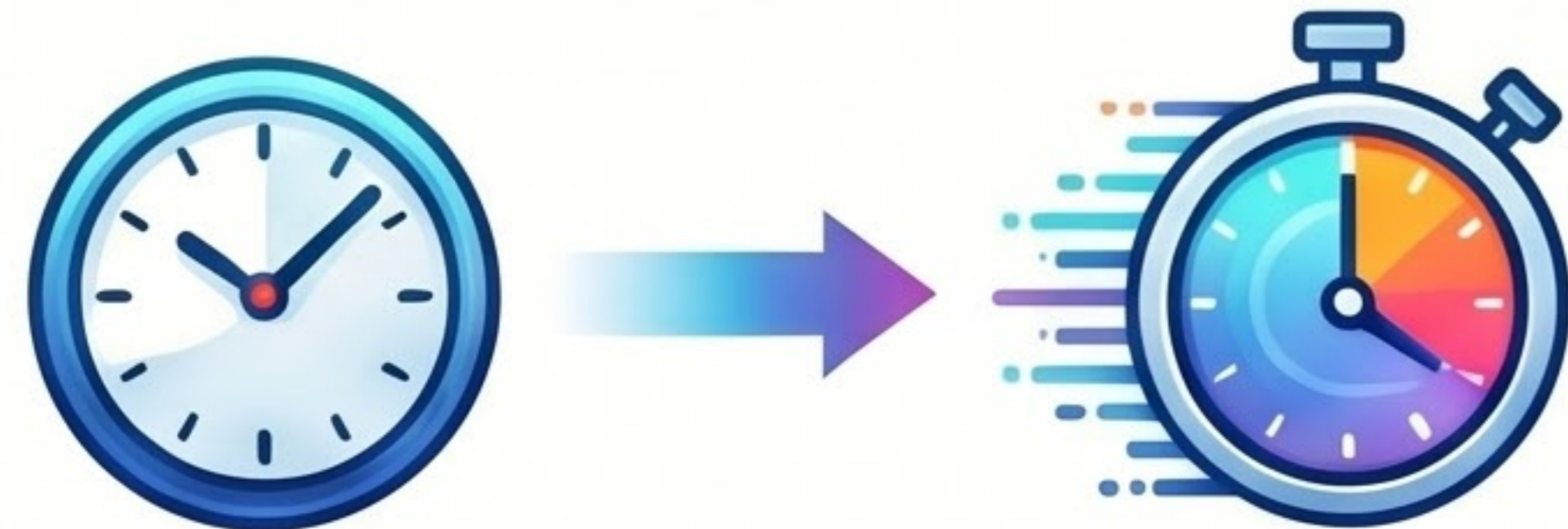


年間**1億2,000万円以上**のコスト削減

当初目標の8,000万円を大幅に超過、外部委託費用の圧縮によって実現

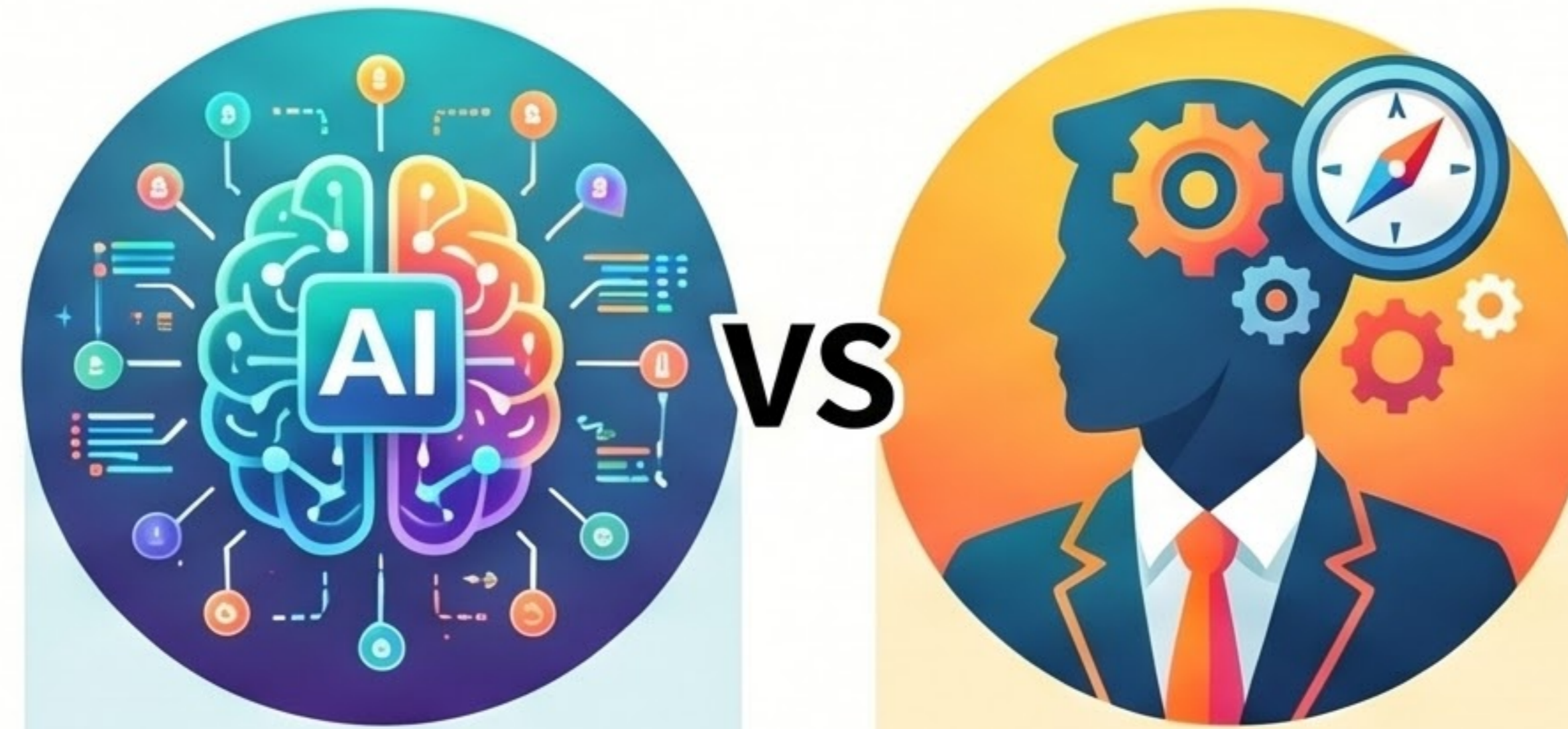
関連工数を最大**90%**削減

特にFTO（他社権利調査）で研究開発者の工数を劇的に減らす



外国OA対応の分析を「**数か月**」から「**数分**」へ
ベテランの知見をプロンプト化し、AI主導の業務フローへ移行

AIと人間の役割分担（AI vs. 弁理士）



AIは「**80~90点**」の
ドラフト生成を担当

人間は「**トップクオリティ**
と責任」を担当



「**1万件の不安**」を
「**3件の重要案件**」に絞り込む

AI出力の膨大な情報から致命的なリスクを特定し、経営者がアクセルを踏める状態を作るのが弁理士の価値

従来型から「AI時代」への業務フローの変化

業務フェーズ	従来の関係 (作業の外部委託)	AI時代の関係 (翻局的協業)
発明抽出・調査	事務所へ依頼 or 知時部が長時間かける	企業内AIが自動化・高速処理
明細書作成	事務所が一から作成	企業AIIPベース作成 →事務所が要品質へ昇華
外国OA分析	現地代理人に依頼 (高コスト・長期間)	企業AIが自分で分析 →事務所と戦略共有
翻訳	全量を外部委託	AIで内訳化 →複雑な調整のみ外部依頼
弁理士の役割	手続きの代行者	経営判断の構想を作る 「ビルダー」

生き残る弁理士への5ステップ

